

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01889

研究課題名（和文）母親の育児行動に対する自律的動機づけを支えるアセスメントツールの開発

研究課題名（英文）Development of assessment tool to support autonomous motivation for mothers' childcare behavior.

研究代表者

寺蘭 さおり（TERAZONO, Saori）

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：90457937

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、保育士が活用できる母親の育児行動に対する自律的動機づけを支えるアセスメントツールを開発することを目的とした。まず、母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度と動機づけ尺度」を作成し、信頼性と妥当性を検証した。次に、自己決定理論に基づき、母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造を明らかにした。そしてこれらの基礎研究の知見をもとにアセスメントツールを作成し、その有用性を確認した。また、本アセスメントツールを活用した育児支援に関する冊子を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国では母親の育児不安や不適切な育児行動である虐待に対して、その軽減に向けた様々な取組がなされている。

本研究では日常的に繰り返す必要のある育児行動に焦点を当て、自己決定理論の枠組みから、母親への育児支援モデルを検討し、基礎研究の知見の実践的応用を目指した。本研究において、客観的な視点から母親の育児行動を観る視点が整理されたことにより、保育士が実際の母親の育児行動やその背景となる基本的心理欲求を把握した上で支援方法を検討することに繋がるのが考えられる。本研究成果は母親の育児不安や虐待の増加などの問題を解決する糸口になると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop assessment tool which supports autonomous motivation for mothers' childcare by nurse teachers. First, this study developed a scale for the basic psychological needs scale and motivation scale for childcare behavior, then verified its reliability and validity. Second, this study employed self-determination theory to examine the structure of autonomous motivation for childcare behavior. Third, based on the findings of these basic researches, I was created the assessment tool and confirmed its effectiveness. Finally, a booklet that explain the childcare support of this assessment tool was created.

研究分野：子ども学

キーワード：育児行動 母親 自律的動機づけ 自己決定理論 子育て支援 保育士 アセスメントツール

## 1. 研究開始当初の背景

我が国では子育て期の母親の育児不安や不適切な育児行動である虐待に対して、その軽減に向けた様々な取組がなされている(厚生労働省, 2014)。

寺園ら(2015)は適切な育児行動として乳幼児期の子どもをもつ母親の子育て期母親役割尺度を作成し、これらの遂行度が高いほど母親としての満足感が高いことを明らかにしている。しかし母親は常に満足感を得ながら日常の育児行動を繰り返しているわけではない。乳幼児期の子どもを持つ母親は子育てに対して肯定的な感情をもつと同時に子育てによる制約感をもつという(柏木ら, 1994)。しかし子育ての否定的な側面を受け入れながら、母親として適応していくという(徳田, 2004)。このことから母親は子育ての否定的な経験でさえもその価値を認め、不適切な育児行動を取ることなく、自律的な動機づけにより育児行動を継続させていくことが考えられる。

これまでの動機づけ研究のうち、Ryan & Deci (2000)の自己決定理論では、従来対立するものと考えられていた内発的動機づけと外発的動機づけを自律性(自己決定性)という連続体で捉えている。この理論によると、人間には自律性、有能感、関係性への欲求という3つの基本的心理的欲求があるという。これら3つの基本的心理的欲求が満たされていることにより、自己決定的な行動が起こり、well-beingも促進されるという。

子育ての動機づけと育児行動の関連について、内的喜びが高いほど相互作用時間が長く、社会的当為が高いほど世話役割が高いことが示唆されている(小林ら, 2015)。しかし、こうした日常的に継続していく育児行動に対する母親の動機づけの研究は少ない。

## 2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では日常的に繰り返す必要のある育児行動の継続する要因を検討することは、母親の育児不安や不適切な育児行動でもある虐待などの問題を解決する糸口になると考えた。そこで本研究では、乳幼児期の子どもをもつ母親の育児行動に対する動機づけの構造を明らかにし、保育士が活用できる母親の育児行動に対する自律的動機づけを支えるアセスメントツールを開発することを目的とした。

具体的には、乳幼児期の子どもをもつ母親の「育児行動に対する基本的心理的欲求充足」尺度と「育児行動に対する動機づけ」尺度を作成した(研究1)。次に、母子のwell-beingと関連する育児行動尺度を作成し、研究1で作成した尺度を用いて乳幼児期の母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造を明らかにした(研究2)。これら基礎研究の知見をもとに、乳幼児期の子どもをもつ母親のアセスメントツールを開発し、実践的研究により本アセスメントツールの効果を検証した(研究3)。以上を踏まえ、母親の育児行動に対する自律的動機づけに着目した支援のあり方の検討と保育士が実際に活用できるアセスメントツールの開発を目指した。

## 3. 研究の方法

〔研究1〕乳幼児期の子どもをもつ母親の育児行動に対する基本的心理的欲求充足尺度と動機づけ尺度の作成

質問項目(原案)の作成: Ryan & Deci (2000)の自己決定理論の概念定義を参考にした。発達心理学を専門とする研究者と項目が定義に沿っているか確認した。その後、同意の得られた乳幼児の子どもをもつ母親3名と育児経験者として小学生の子どもをもつ母親2名を対象に面談を実施し、質問項目を確認した。母親の育児行動に対する基本的心理的欲求充足尺度と動機づけ尺度の原案はいずれも20項目であった。

調査時期: 2017年9月

調査対象者: 乳幼児期の子どもをもつ母親

調査内容: 母親の育児行動に対する基本的心理的欲求充足尺度、母親の育児行動に対する動機づけ尺度、育児に対する自己効力感尺度(金岡, 2011)

〔研究2〕乳幼児期の子どもをもつ母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造の検討

(1) 母親の育児行動尺度の作成

質問項目の選定: 「子育て期母親役割尺度」(寺園・山口, 2015)より12項目選定し、探索的因子分析を実施した。

調査時期: 2018年7月~10月

調査対象者: 幼児期の子どもをもつ母親

調査内容: 母親の育児行動尺度、幼児版QOL尺度(親用)(根本, 2012)、愛着-養育バランス尺度(武田ら, 2012)

## (2) 母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造の検討

調査時期：2019年3月

調査対象者：幼児期の子どもをもつ母親

調査内容：母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度（寺園，2019），母親の育児行動に対する動機づけ尺度（寺園，2019），母親の育児行動尺度（寺園・山口，2021），育児に対する自己効力感尺度（金岡，2011），主観的幸福感尺度（伊藤ら，2003）

〔研究3〕母親への育児支援に関するアセスメントツールの開発と効果検証

### (1) アセスメントツールの指標の選定

研究1と2で作成した尺度をアセスメント項目の候補とした。

### (2) アセスメントツールの内容妥当性の検討

実践研究時期：2019年10月から2020年3月

研究協力者：7名の保育士により10事例の育児支援を展開

調査方法：研究者と保育者が共通認識を図るための面談をしながら，保育士が実際に本アセスメントツールを用いて育児支援を展開し，経過記録の記入を求めた。なお，母親の育児支援に対する保育士の情報収集，アセスメント，支援内容から本アセスメントツールの有用性を検討するには，質的に明らかにすることが適していると考え，研究デザインは質的記述的研究とし，保育士が記録した育児支援の経過を分析の対象とした。

### (3) アセスメントツールの評価

調査時期：2020年3月～4月

調査対象者：研究3の(2)で育児支援を実践した保育士7名

調査方法：本アセスメントツール使用前後の変化，アセスメントツールの改善点や意見，育児支援の実際等質問紙による自由記述を求めた。

### (4) 冊子の作成

研究1～3の知見に基づき，本アセスメントツールを活用した育児支援に関する冊子を作成した。

なお，研究1～3を行うにあたり，所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

## 4. 研究成果

〔研究1〕乳幼児期の子どもをもつ母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度と動機づけ尺度の作成

回答に不備のあるデータ等を省いて329名を分析の対象とした。母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度について因子分析の結果，3因子「自律性への欲求充足：4項目（ $\alpha = .76$ ）」「有能感への欲求充足：5項目（ $\alpha = .87$ ）」「関係性への欲求充足：6項目（ $\alpha = .84$ ）」が抽出された。次に妥当性について育児に対する自己効力感尺度との関連を確認し，それぞれ有意な正の相関が確認された。また，母親の育児行動に対する動機づけ尺度について因子分析の結果，5因子，各3項目「内的調整（ $\alpha = .83$ ）」「同一化的調整（ $\alpha = .70$ ）」「取り入的調整（ $\alpha = .75$ ）」「外的調整（ $\alpha = .62$ ）」「無動機づけ（ $\alpha = .79$ ）」が抽出された。下位尺度の相関係数を算出した結果，概念的に近い動機づけの間には有意な正の相関，概念上遠い動機づけほど有意な負の相関もしくは無相関になるシンプレックス構造も確認された。以上，それぞれ概念構成の妥当性を備えた尺度が作成された。

〔研究2〕乳幼児期の子どもをもつ母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造の検討

### (1) 母子の well-being と関連する育児行動の項目を検討

回答に不備のあるデータ等を省いて250名を分析の対象とした。確認的因子分析の結果，3因子，各4項目「子どもの発達を促すかわり（ $\alpha = .83$ ）」「社会生活に向けての教育（ $\alpha = .69$ ）」「基本的生活習慣の確立に向けての援助（ $\alpha = .76$ ）」を確認した。なお，12項目全体の $\alpha = .84$ であった。妥当性については幼児版 QOL 尺度（親用）と愛着-養育バランス尺度との関連を確認した。結果，幼児版 QOL 尺度（親用）と愛着-養育バランス尺度の養育的因子とは有意な正の相関，愛着的因子とは有意な負の相関が認められ，本尺度の妥当性が確認された。

### (2) 母親の育児行動に対する自律的動機づけの構造の検討

回答に不備のあるデータ等を省いて419名を分析の対象に育児行動に対する基本的心理欲求充足，動機づけ，育児行動，育児に対する自己効力感，主観的幸福感について自己決定理論に基づき，モデルを検証した。モデル検証に先立ち，本研究で作成された尺度について Cronbach の係数を求めたところ，いずれも $\alpha = .85 \sim .90$ と高い値を示し，内的一貫性が保たれていた。共分散構造分析によるパス解析の結果，3つの基本的心理欲求が充足すると内的調整は育児行動，育児に対する自己効力感を介して主観的幸福感を高めるプロセスが示された。以上の結果から，乳幼児期の子どもを持つ母親の well-being の向上を目指すには，母親の育児行動に対する自律

性、有能感、関係性それぞれの欲求充足に応じた支援が有効であることが考えられ、本研究で作成された基本的心理欲求充足尺度はその欲求充足状況を把握するアセスメントツールとして可能であると推察された。

### 〔研究3〕母親への育児支援に関するアセスメントツールの開発と効果検証

#### (1) アセスメントツールの指標の選定

研究1と2で作成した尺度をアセスメント項目の候補とした。

#### (2) アセスメントツールの内容妥当性の検討

初回アセスメントでは、母親の育児方法の課題や育児に対する有能感、関係性、自律性への欲求充足状況を理解し、支援への検討に繋がっていたことが確認された。また、支援時の経過記録を分析した結果、自己決定理論を活用した支援の特徴として【育児に対する有能感への支援】【保育士-保護者関係構築】【家族関係構築】【育児ネットワークの構築】【保護者間関係構築】【保育の知識・技術の伝達】【親役割観の尊重】【子ども観の尊重】の8つのカテゴリが抽出された。そして、保育士の助言を受け入れない母親への支援の特徴、母親の育児支援に対する有能感への欲求を充足していく支援の特徴、母親の育児に対する自律性への欲求を充足していく支援の特徴が確認され、本アセスメントツールを活用することにより、保育士との安定した関係性の中で、有能感、自律性の順で充足、促進され、自律的動機づけが形成されていくことが考えられた。以上の結果から、本アセスメントツールは母親の育児に対する自己決定性を尊重しながら、子どものニーズと一致しない育児をしている母親への育児支援に貢献すると考える。

#### (3) アセスメントツールの評価

保育士による実践研究終了後の自由記述による評価を分析した結果、「アセスメントツール活用前の支援の振り返り」「意図的な情報収集」「母親の理解」「支援方法の拡がり」「支援する喜び」等の内容が確認された。このことから、保育士が本アセスメントツールを活用することにより意図的な情報収集により、母親に対する理解が深まり、保育士の支援の幅が広がっていることが明らかとなった。以上より、本アセスメントツールは客観的な視点から母親を理解し、育児支援方法を導き出す方略の一つであると考えられる。

#### (4) 冊子の作成

本アセスメントツールを活用した育児支援に関する冊子を作成した。冊子には、自己決定理論を活用した育児支援モデルを提案するために、自己決定理論や研究結果を紹介した上で、育児支援のフローチャートや母親の育児を観る視点（本アセスメントツール）、母親の育児の情報を整理するシート、育児支援を振り返る母親を尊重した育児支援チェックリスト等を示した。

### 〔引用文献〕

- 伊藤裕子, 相良順子, 池田政子, 川浦康至 (2003). 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. *心理学研究*, 74, 276-281.
- 金岡 緑 (2011). 育児に対する自己効力感尺度 (parenting Self-efficacy Scale : PSE 尺度) の開発とその信頼性・妥当性の検討. *小児保健研究*, 70, 27-38.
- 柏木恵子・若松素子 (1994). 「親となる」ことによる人格発達: 生涯発達の視点から親を研究する試み. *発達心理学研究*, 5, 72 - 83 .
- 小林佐知子他 (2015). 子育ての動機づけと育児行動. *日本教育心理学会発表論文集* 57, 554 .
- 厚生労働省 (2014). 「健やか親子 21 (第2次)」について検討会報告書. <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041585.html>. (参照 2021-06-09)
- 根本芳子 (2012). 幼児版 QOL 尺度 - の日本における Kiddy-KINDL<sup>R</sup> Questionnaire 「幼児版 QOL 尺度」の検討 - . *子どもの健康科学*, 13, 47-51 .
- Ryan, R.M., & Deci, E.L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- 武田江里子・小林康江・加藤千晶 (2012). 母親の子どもに対する「愛着 - 養育バランス」尺度の開発第2報 - 尺度としての信頼性と妥当性 - . *日本看護科学会誌*, 32, 22-31 .
- 寺園さおり, 山口桂子 (2015). 子育て期母親役割観尺度の作成. *小児保健研究*, 74, 491-497 .
- 徳田治子 (2004). ナラティブから捉える子育て期女性の意味づけ: 生涯発達の視点から. *発達心理学研究*, 15, 13-26 .

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 寺園さおり	4. 巻 78
2. 論文標題 子育て期の母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足と動機づけとの関連	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 寺園さおり 吉川はる奈 上岡紀美	4. 巻 69
2. 論文標題 保育士による「保護者支援」実践プロセス - 「子どもへのかかわり」の支援に焦点を当てて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教育学部	6. 最初と最後の頁 313-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 寺園さおり 吉川はる奈 浜崎隆司	4. 巻 70
2. 論文標題 母親の育児支援に関するアセスメントツールの開発 自己決定理論に基づくアセスメント項目の内容妥当性の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 教育学部	6. 最初と最後の頁 83 99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 寺園さおり 山口桂子	4. 巻 80
2. 論文標題 『母親の育児行動尺度』の作成 子育て期母親役割尺度からの選定	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 164 171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 寺園さおり
2. 発表標題 母親の育児行動に対する基本的心理欲求充足尺度の作成
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺園さおり 浜崎隆司
2. 発表標題 母親の育児行動に対する基本的心理欲求と動機づけ・well-beingとの検討
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺園さおり 山口桂子
2. 発表標題 『母親の育児行動尺度』の作成
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺園さおり 吉川はる奈
2. 発表標題 『保護者支援』実践時の保育者の意図：自由記述からの分析
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺園さおり 吉川はる奈
2. 発表標題 保育所における母親の「子どもへのかかわり」サポートシート活用の試み
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺園さおり 浜崎隆司
2. 発表標題 自己決定理論に基づく育児支援の検討：アセスメントツール活用の視点
3. 学会等名 日本応用教育心理学会第35回研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------